＜様式 11＞（引受教員用）

共 同 研 究 成 果 報 告 書

提出日： 2026 年 6 月 24 日

名城大学 学長 殿

引 受 教 員 （共同研究者）	所 属 ・ 職 名	情報工学部・教授
	氏 名	川澄 未来子 ㊞
外国人招へい研究員	Kitirochna Rattanakasamsuk （国籍： Thailand ）	
共 同 研 究 期 間	2026 年 4 月 23 日～ 2026 年 6 月 24 日（ 2 ヶ月 日間）	

共 同 研 究 要 旨	研究のメインテーマは「年間カラーリズムに基づいた景観色彩の日タイ比較研究」（Comparative study of beautiful colorscape between Thai and Japanese based on the Annual Color Rhythm）で、美しい色風景データライブラリの国際版において、昨年度からタイ地域を中心にデータ整備（画像、説明文、主観的色彩など）を始めデータ数が揃ってきたため、日本の 300 以上のデータ群と比較し、両国の色彩景観美の差異について、季節・環境・文化などの視点から比較・分析した。また、2 ヶ月間の滞在期間中に、他にも、味覚と色彩の関係性の研究、色彩とジェンダーの関係性の研究などに取り組んだ。
共 同 研 究 成 果	タイの色風景データ数は 203 となり、バーリン&ケイの基本色を使った色名数としては 531 を収集することができた。タイの地域を北部、東北部、中部、南部に分け、また、月や季節ごとに分けて色彩分布をみたところ、まず日本のように季節的な循環色彩（新緑、紅葉、雪景色など）が反映されることはなく、年間を通じて緑色と水色が支配的であることがわかった。また、日本ではモノトーン（白・灰色・黒）が年間を通じて 40%程度あるのに対し、タイでは 15%と低いことがわかった。本学では、私の研究室に所属する大学院生（中国人留学生）がこの研究を担当しており、気候や文化による特徴的な色彩の差異について引き続き分析する予定である。 他の研究テーマについては、特に味覚の研究で、Solty、Sweet、Sour 以外に Bitter、Spicy、Umami を足す実験を開始した。続きは 7 月にタイの大学にて本学学生が実施する予定である。

（提出先：名城大学国際化推進センター）

<様式 12>（外国人招へい研究員用）

共同研究成果報告書

提出日： 2026 年 6 月 24 日

名城大学 学長 殿

研究員氏名	Kitirochna Rattanakasamsuk（キチロー ラッタナカセムスク）	（署名）
研究期間	2026 年 4 月 23 日～ 2026 年 6 月 24 日（ 2 ヶ月 日間）	
引受教員（共同研究者）	所属・職名	情報工学部・教授
	氏名	川澄 未来子 ㊞

研究課題名	年間カラーリズムに基づいた景観色彩の日タイ比較研究（Comparative study of beautiful colorscape between Thai and Japanese based on the Annual Color Rhythm）
研究結果	We significantly expanded the Thai colorscape database to 203 images, extracting 531 color data points across four regions: North (35), Northeast (23), Central (405), and South (66). Color data were categorized using 12 basic color terms (Berlin and Kay's 11 colors plus Fah or Light Blue). The "Annual Color Rhythm" analysis revealed significant environmental contrasts. Japan exhibits a highly dynamic, seasonal rhythm: White in winter (snow), Pink in April (Sakura), Green in summer, and Red in autumn. Conversely, Thailand's overall colorscape is dominated by Green and Light Blue year-round. However, some regional variation was observed: the North and Northeast show a higher proportion of Brown than other regions. Furthermore, achromatic colors (white, black, and gray) account for approximately 40% of the Japanese colorscape throughout the year, compared to only about 15% in Thailand. Beyond the main research, we collected data from 22 Japanese observers in a color–gender association experiment, indicating a strong linkage between color and gender in Japan. We have also initiated a collaborative study on color and taste perception, conducted in parallel at Meijo University and RMUTT.

（提出先：名城大学国際化推進センター）